

# 国際柔道連盟試合審判規定 (2017-2020)

## 改正の要点

国際柔道連盟発信  
2017/3/17 更新

### 試合時間

- 男女共に試合時間を4分とする。これは、IOCが男女の公平性を求めていること、ならびにオリンピックにおける男女混成団体戦で試合時間を統一するためである。

### スコア

- スコアは、「一本」と「技あり」のみとする。
- 「技あり」には、今までの「有効」も含まれる。
- 「技あり」2つでも、「一本」と同等とはしない（“合わせ技一本”の廃止）。

### 抑え込み時間

- 10秒で「技あり」、20秒で「一本」とする。

### 試合の決着

- 規定試合時間（4分）において、試合は「技あり」、もしくは「一本」のテクニカルスコアのみ決着がつくこととする。
- （直接もしくは累計による）「反則負け」を除き、「指導」（1回目、2回目）の違いだけでは勝者を決定しない。
- 「指導」は、相手のスコアとはならない。

### ゴールデンスコア

- 規定の試合時間が終了した時点で、試合両者にスコアがない場合、もしくはスコアが同等である場合、「指導」の有無にかかわらず、その試合はゴールデンスコアに突入する。
- ゴールデンスコアに入る前の規定試合時間内に与えられたスコア、ならびに罰則は、引き続きスコアボードに反映される。
- スコアが与えられた時点で、ゴールデンスコアは直ちに終了する。
- ゴールデンスコア中に「指導」が与えられた場合、与えられた選手が相手よりも多くの「指導」を受けたことになる場合、その試合は終了する。  
（別紙資料 ゴールデンスコア参照）

## 罰則

- 指導 4 ではなく、指導 3 で「反則負け」となる。
- 3 回目の「指導」が与えられた時点で「反則負け」となる。
- ~~審判の作法や審判への理解を明確にするため、過去に柔道衣の握り方で罰則が与えられていたピストルグリップ、ポケットグリップなどの組み手について、今後は罰則を与えない~~

## 組み方

- 標準的でない組み方（クロスブリップ、片襟、帯を握る行為、ピストルグリップ、ポケットグリップ等）の場合、直ちに攻撃しなければ「指導」が与えられる。
- ベアハグ（投げるために相手に抱きつく行為）を行う場合は、攻撃する選手が少なくとも片方の組み手を持っていないといけない。組手のない状態において両手で相手に抱き着く行為には「指導」が与えられる。柔道衣に触れただけでは組んでいるとはみなさない。しっかり柔道衣を握っていること。
- 相手の袖の中に指を入れる行為は、今まで通り罰則を与える。
- 攻撃をしようとしなない、防御姿勢など柔道精神に反する消極的な行為に対しては厳しく「指導」が与えられる。
- 投技を準備するのに時間がかかることもあるため、組んでから攻撃を掛けるまでの時間を 45 秒に延長し、それまでに技がない場合は「指導」を与える。
- 脚を掴む行為や下穿きを握る行為については、1 回目は「指導」が与えられ、2 回目は「反則負け」が与えられる。

